



～地域とともにある学校をめざして～

# 鯨コミ

R5 CS通信No.5 R5.6.23



(コミュニティ・スクール通信) 文責 社会教育推進 DC 藤田昭彦

## 学校支援ボランティアの協力による 校内での全校縦割り班遠足



6月16日(金)は、西海小学校の全校縦割り班遠足の日でしたが、朝からあいにくの雨で、校内で全校縦割り班遠足を行うことになりました。

縦割り班遠足には、西海小担当のコーディネーター工藤律子さんの呼びかけで、学校支援ボランティアとPTA8名の応援がありました。

学校支援ボランティアとPTAの方々は、8つの関門で行われるゲームの補助や審判の仕事をしました。ゲームの審判はもちろんですが、あいさつができているか、マナーを守っているか、協力しているかの3つの態度について、担当の先生と一緒に見ていました。

学校支援ボランティアとPTAの方々は、「ボランティアに来ると、学校の様子を知ることができるので良い。」

「子どもたちから元気をもらうことができる。」  
「また来たいと思って帰ることができる。」  
と、話していました。

## 「日本遺産北前船文化」を学ぶ



町教育委員会が進める「ふるさと学習」5本柱の1つである「日本遺産北前船文化」を学ぶ体験として、6/15(木)舞戸小6年生が、白八幡宮を訪ねました。実施にあたって、学校から、「鯨ヶ沢町の歴史ものがたり」として、座学と現地学習を組み合わせたいという要請を受けました。町総括学芸員の中田書矢氏から、

「北前船は軽いと安定しないので安定させるために御影石を積んだ。」

「北陸や大阪から北前船で移り住んだ人がいる。」

「本殿を囲む玉垣の一本一本に奉納者である大阪、北陸、鯨ヶ沢の船問屋の名前が刻まれている、日本海交易の繁栄ぶりを伝えている。」

という説明を聞き、子どもたちは、北前船の航海に大きな興味関心を抱いていました。

## 鯨ヶ沢の魅力発信とオブジェの制作



6月20日(火)鯨ヶ沢中学校3年生が、鯨ヶ沢町のふるさと学習を行いました。

今回の学習は、町政策推進課の工藤主事から、町の現状と課題について説明がありました。

将来の鯨ヶ沢町を支えることになるのは、鯨ヶ沢町の子供たちです。このため、ふるさと学習等を通してふるさと鯨ヶ沢に愛着と誇りを持つ人材の育成が不可欠となっています。

工藤主事からは、鯨ヶ沢の魅力発信に直結するオブジェの制作が提案されました。

説明終了後、生徒からの質問コーナーがあり、オブジェの素材、作る場所、予算等についての質問に対して、工藤主事が丁寧に答えていました。